




平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

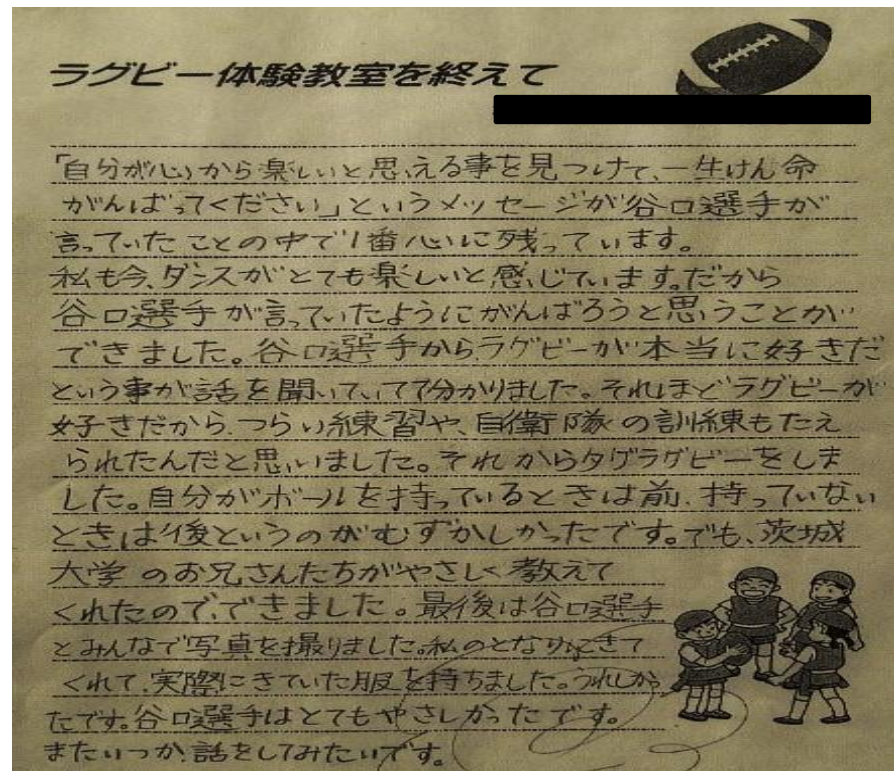
1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	土浦市立菅谷小学校 全校児童 153名 1年：22名 2年：27名 3年：20名 4年：28名 5年：35名 6年：21名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ・ 体育 ） 2 行事名（ ） 3 その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックによる、オリンピックの話や競技経験の話聞くことにより、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。</li> <li>・特に、ラグビーに特化し、競技人口の少ない競技であるラグビーへの認知及び理解への促進を図る。</li> <li>・タグラグビーを実施することにより、スポーツすることの楽しさを味わい、ラグビーの面白さを体験する。</li> </ul>
5 取組内容	<p>① 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タグラグビーを授業で実施し、当日ゲームができるようにした。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>② オリンピック・パラリンピック教育推進事業</p> <p>「オリンピック選手に話を聞こう」1月15日（月）3校時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 リオデジャネイロオリンピック出場 谷口令子さんの話を聞く</li> </ul> <p>○講師紹介と説明、質疑応答の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

○ラグビー体験教室の様子



6 主な成果

- 東京 2020 マスコット投票時期と重なり、オリンピックについての関心が高まった。
- オリンピック（女子7人制代表選手）の話は、子どもたちにとって夢をもたせるものになった。また、教育的にも子どもたちのためになる話であったので、子どもたちにとって心に響く有意義な時間となった。
- 日本ラグビーフットボール協会の方の説明で、ラグビーに対する理解が深まった。
- 5・6年生は、タグラグビーを通して、楽しいスポーツ活動ができた。大学生のサポートがあったために、ゲームもスムーズに進行することができた。



## ラグビー体験教室を終えて



1月15日に、ラグビーの体験教室がありました。そして、オリンピック選手の谷口選手がきてくれました。私が谷口選手の言葉で一番心に残ったのは、「ラグビーが好きだからやめたいと思ったことはありません」という言葉です。ラグビーはとても大変な練習がたくさんあって、ラグビースクールに入ったときは男の子の中で女の子1人だけで練習しているのはとてもすごいなと思いました。そして、クラシックバレエとラグビーをやっている、とても大変なラグビーを選んだ谷口選手は本当にラグビーが好きなんだなと思いました。日本代表になった谷口選手は、チームのみんなと合宿に行って、泣くほどつらい練習があってものりこえられたのもラグビーが好きだからだと思います。このように体験はもうできないと思うので、体験ができてとても楽しかったです。



7実践において工夫した点(事業の特色)

- 日本ラグビーフットボール協会に来ていただいて、映像などで分かりやすくルールや大会の様子を説明していただいた。
- 短い時間でゲームができるように、事前授業でタグラグビーを学習し、さらに大学生のアシスタントを配置して、当日のゲームがスムーズに進行するようにした。

8主な課題等

- 日本ラグビーフットボール協会の日程上、秋の実施が難しかった。(ラグビーシーズンのため日程調整が課題だった。)
- オリンピック・パラリンピック教育推進事業の主旨に見合った活動としては、子どもたちに理解促進を図ることが難しかった。
- 小学校の授業時数も制限があり、この事業に何時間もかけることは難しい。

9来年度以降の実施予定

- 道徳や学級活動の中で、「I'm POSSIBLE」教材を使った授業の展開を考えている。